

特集

アイド

トスネット・I.C.Cインターナショナル
非常時や屋外イベントに電源車

トスネット(仙台市、氏家仁社長)のグループ会社で電源車のレンタルなどを展開するI.C.Cインターナショナル(札幌市、山屋幸雄社長)は、仙台市宮城野区の仙台湾背後地に車両基地を整備し、イベントやコンサート会場などで使用される電源車2台を配備した。7月上旬から運用を始めている。

I.C.Cインターナショナルは昭和58年に設立。車に発電機を搭載し、コンサートやイベント、テレビ局の中継などの電源事業を手がけている。同社ではこれまで札幌の本社の他、横浜にも営業所を構え、合計40台の電源車を保有する。2009年にはトスネットの傘下に入り、警備業と電源供給事業の双方のノウハウを生かし、1つのイベントで両方のサービスを提供するビジネスモデルに発展させてきた。

2011年の東日本大震災以降、有事の際のインフラに対する危機管理が見直された。なかでも、ライフラインである電力の重要性が高まり、非常時の電源確保のため、電源車の必要性に多くの関心が寄せられた。東北地方では数多くの復興イベントが開催されており、イベントを通して防災意識が高まり、重要施設の停電時の対応について着目されるようになった。

これまで東北地方で電源車の需要があった場合は、横浜や札幌から配車することで対応していたが、長距離移動に

における電源車での電源供給(物的支援)と「電源車のドライバー兼オペレーター及び電源工事(人的支援)」を提供することになった。長期間、大型コンサートツアーに帯同することも

伴う時間と費用が発生していた。そのため、トスネットの本社がある仙台に車両基地を新設。従来より低コストで速やかに電源車を提供する体制を整えた。これによって、東北地方での電源供給サービスがさらに充実することになった。昨年、京都・福知山市の花火大会で小型発電機の給油時にガソリン爆発事故が発生した。火災予防対策の観点から、屋外イベントでの照明や調理器具もオール電化が求められる

警備と合わせサービス提供

のようになり、ここでも電源車による電力供給が注目されている。

トスネットでは平成17年、宮城県との災害支援協定で「警備員の提供」と「宿泊施設、バイオートイレ車の提供」を登録しているが、平成25年5月、新たにI.C.Cインターナショナルが「緊急時

同社の電源車の特徴は、低騒音で高品質な電力を供給できること。電源ノイズに敏感な舞台照明や映像、音響機器に給電が可能で、有名アーティストの全国ツアーや夏フェス(野外音楽イベント)で多くの実績をもつ。長期間にわたる全国のドームやアリーナといった大規模会場で開催される大型コンサートツアーでは、電源車を帯同させているほどだ。



仕様の異なる電源車40台を所有する



ステージや照明だけでなく飲食店ブースにも電力を供給。100Vと200Vの同時出力も可能だ

施設点検時のバックアップ
屋外イベントや大規模コンサートなど、これまで商業用の電力供給が主体だったが、東日本大震災後は病院や介護施設、大型商業施設における年次点検時の依頼が増えつつあるようだ。年次点検

の撤収が要求されるケースもあるという。実際、仙台市西公園で10月4日に開催された屋外イベントではステージ照明・音響だけでなく、飲食物販ブースの照明や調理器具に対して電力を供給した(本紙は3人のスタッフで、コンサートステージとイベント会場全体に張り巡らすケーブルの配線・敷設を約5時間で終えたという。

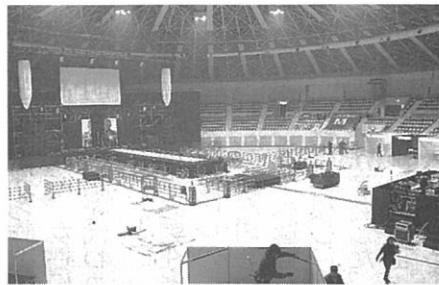
山屋社長は「これからはクリーンエネルギーの時代となる。より一層、ガソリンから軽油に切り替わっていくだろう。燃料に応じた電源車の開発も必要になってくる」と、現状に満足することなく、さらにその先を見据える。



病院の年次点検時に電源供給



経験豊富なスタッフが施行・運営を行う



ドームクラスのコンサートに電源を供給

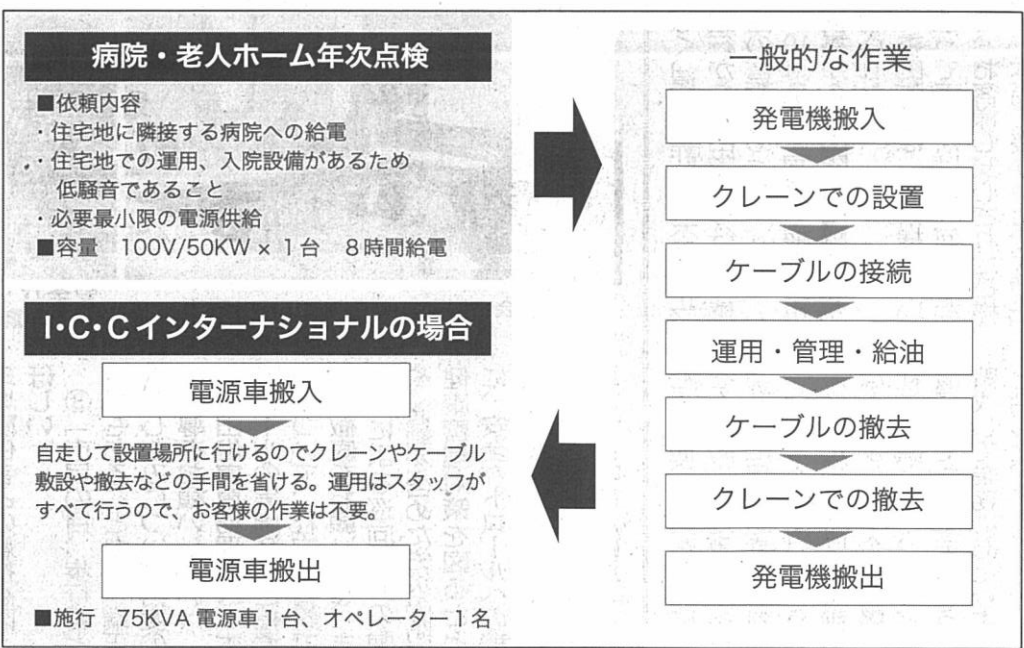


図1 年次点検での施行実例